新政あいち　愛知県議会議員（日進市および東郷町選出）　2020.7.24　NO.21

福田よしお県政レポート

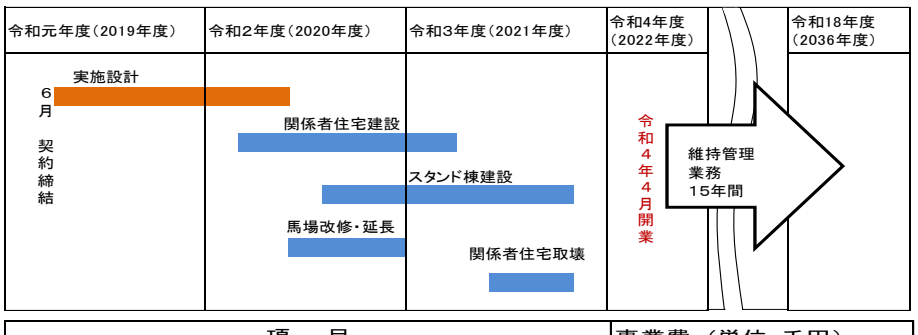
編集・発行　福田よしお事務所　〒470-0155　愛知郡東郷町白鳥二丁目 4-7
ＴＥＬ：0561-39-4407　ＦＡＸ：0561-39-4408　e-mail：fukuta440@yahoo.co.jp
ホームページ・Facebook にも活動のようすをアップしてあります。ぜひご覧ください！

令和２年臨時愛知県議会(4 月 24 日)・ (5 月 27 日)
令和２年６月定例愛知県議会(6 月 16 日～7 月６日)

夏本番となり連日猛暑の続く季節となりましたが皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。さて新型コロナウイルスの感染拡大により愛知県は４月 10 日に「緊急事態宣言」を発するとともに「愛知県新型コロナウイルス感染症緊急対策」を取りまとめ「医療面での対策」「県民生活への対策」「経済対策」の視点から緊急に施策を実施するため４月と５月に臨時県議会が招集され、国の緊急対策とともに県民生活や経済活動を守り抜く施策を積極的に打ち出してきました。特に感染防止や医療面での対策として愛知県独自の「愛知県医療従事者応援金」を創設して医療従事者の処遇改善と併せて「あいち医療応援基金条例」を創設して寄付を募り応援金に上乗せするものです。また休業要請に対する支援金制度と休業や失業により収入が減少した世帯への生活資金の貸し付け経費の増額のほか、すべての県立高等学校・県立特別支援学校において民間のオンライン学習支援サービスを導入するとともに、奨学金制度も拡充しました。また中小企業・小規模事業者の資金繰り支援として「新型コロナウイルス感染症対策緊急小口つなぎ資金」を創設し、商工会議所、商工会にも協力を頂き支援を続けています。また６月定例議会には民間の児童福祉施設等や私立幼稚園に対する応援金、タクシー事業者の行う車内の飛沫感染防止スクリーンを支援すること、さらに中小企業向け新型コロナウイルス禍の事業継続計画(BCP)策定を支援し、また漁場清掃活動支援のほか県内旅行商品の旅行事業者助成や通販サイトを活用して県産農林水産物や観光物産品の割引、送料無料なども支援するとともに、追加補正予算で「新型コロナウイルス感染症応援金」を拡充するなど計 20 議案を可決、同意しました。私は６月定例議会本会議で一般質問を行いましたので、質疑の内容を中心に報告させていただきます。なお今期は経済労働委員会と愛知県都市計画審議会の委員、愛知県競馬組合議会議員を務めます。結びに引き続き感染防止対策にご留意いただき、安心・安全な愛知をめざして参りますので一層のご理解とご支援を賜りますようお願いしてご挨拶といたします。

愛知県競馬組合トピックス　　「名古屋競馬場移転整備等計画」

名古屋市港区土古町地内の名古屋競馬場は昭和24年5月に竣工し、昭和28年8月豊明市に中京競馬場が竣工しました。また昭和52年3月弥富トレーニングセンターを開所して約1,100頭いる競走馬の厩舎等を移転し、今回、老朽化した名古屋競馬場を弥富市の弥富トレーニングセンターに移転するとともに、移転後の跡地は2026年第20回アジア競技大会の選手村候補地となります。移転概要はつぎのとおりです。



項　目		事業費（単位：千円）
設計業務		344,055
建設業務	スタンド建設（投票所、観客席等）	3,482,853
	付属棟建設（入場門、設備棟等）	947,545
	既存施設改修（騎手会館、馬事会館等）	555,035
	馬場改修(ナイター照明含む)	1,166,604
	関係者住宅建設	1,686,822
	その他建設業務	2,417,594
維持管理業務一式		1,807,492
事業費合計		12,408,000

本会議　一般質問

「国の防災基本計画改定への対応について」

（1）台風や豪雨時の大規模停電時における早期復旧体制等の整備について

質問要旨（福田よしお）　昨年の９月議会の一般質問に対して「本県においても関係機関相互の協力体制の一層の強化に取り組む」と答弁されたが、大規模停電時における早期復旧体制等の整備に向けた検討状況と今後どのように取り組むのか。

答弁要旨（防災安全局長）　大規模災害時に公共インフラやライフラインの機能を速やかに復旧することが不可欠であり、特に大規模停電に備え、電力・通信事業者との協力体制を確立しておくことは極めて重要である。このため本県では、昨年１１月指定公共機関である中部電力株式会社と西日本電信電話株式会社に参画を求め、公共インフラの復旧を所管する建設局・農林基盤局とともに検討会を立ち上げて、災害時の早期復旧に向けた連携体制を構築し、協定を締結することができるよう協議を重ねてきた。具体的には道路の啓開作業や電力・通信設備の復旧作業に支障となる倒木や土砂等の除去、作業時における感電事故などの防止対策など、それぞれの強みを生かし、一体となって復旧作業を進める方法について協議するとともに、発災時の連絡体制はもとより平時から情報を共有する仕組みづくりに取り組んでいる。また、協力体制の実効性を一層高めるため、災害派遣の要請など自衛隊との連携方法や復旧作業に並行して医療施設などの重要施設に電源車を緊急派遣する体制などについても協定に定めることとしている。これまでの協議の結果、概ね合意ができたので、遅くとも台風シーズンが本格化する前の８月内には協定を締結することができるよう引き続き実務的な細則の作成を含め、最終的な調整を進めていく。今後も、防災機関、道路管理者、電気・通信事業者が、緊密に連携・協力する「顔の見える体制づくり」に向け、しっかりと取り組んでいく。

（2）新型コロナウイルス感染症禍での危機管理体制を維持する訓練について

（2019 年愛知県総合防災訓練）

質問要旨（福田よしお）　「愛知県総合防災訓練」や「愛知県津波・地震防災訓練」の中止を決定したが、新型コロナウイルス感染症のリスクが続く状況であっても巨大台風は来襲するし、地震は突発的に発生するので複合的なリスクに対する危機管理体制を維持する訓練はどのように実施するのか。

答弁要旨（防災安全局長）　県民の生命と財産を守るためには、感染症の拡大と自然災害の複合的なリスクに備え、万全の体制を執ることが不可欠である。このため本県では災害時の初動や応急対策、テロなどの危機事案への対応等を迅速に進めるために感染防止対策を講じつつ実施することとしている。まず災害対応では９月１日の「防災の日」に本庁の災害対策本部と本年度強化を図った６方面本部が一体的に機能することができるよう本部運用訓練を実施する。また迅速な初動体制の確保に向け職員非常呼出システムと携帯電話メールを用いた伝達訓練や災害情報センターと６方面本部への参集訓練を実施する。さらに市町村との連携体制を維持するため県内５つの広域物資輸送拠点から各市町村の避難所まで支援物資を輸送する「災害物流訓練」や被災市町村の支援にあたる「被災自治体支援活動訓練」に加え、テロ等緊急対処事態を想定した「国民保護共同図上訓練」についても市町村と協力して実施する。今後も県民の皆様の生命と財産を守ることができるようこれらの訓練を重ねしっかりと危機管理体制を維持していく。

（3）地域防災計画の再修正について

質問要旨（福田よしお）国の防災基本計画改定を踏まえ本年はどのように見直しを行ったのか。また**新型コロナウイルス感染症を考慮した地域防災計画の再修正には取り組まないのか。**

答弁要旨（防災安全局長）　本年も出水期に備え６月１日に「水防計画」とともに「地域防災計画の修正案」を防災会議に諮り、全会一致で書面決議をいただいた。地域防災計画の修正は広域的な停電や通信障害に対する早期復旧体制の整備、南海トラフ地震臨時情報の住民への周知と避難対策の推進、さらには県独自に締結した家屋被害認定業務協定による市町村支援など新たな対策を盛り込んだ。また国が５月 29 日の防災基本計画の修正で盛り込んだ**「感染症対策の観点を取り入れた防災対策の推進」**については、避難所対策の留意事項を市町村に周知するとともに「愛知県新型コロナウイルス感染拡大予防対策指針」により、県民や事業者の皆様を含めて広く協力をお願いしてきた。地域防災計画の再度の見直しは東日本台風の検証

を踏まえた災害リスクと、とるべき行動の理解促進など本県の災害対応に必要な事項を含め、現在防災関係機関との調整を進めており、７月中をめどに防災会議に諮ることとした。今後も県民の生命と財産を守るために本県の防災対応を定める重要な計画として不断の見直しを続け万全の体制をとっていく。

「２０２０年ＦＩＡ世界ラリー選手権ラリー・ジャパンについて」

（1）昨年開催されたテストイベント「セントラルラリー」について

質問要旨（福田よしお）　昨年 11 月に開催された WRC テストイベント「セントラルラリー」の問題点、反省点と対応策を伺う。

答弁要旨（スポーツ局長）　セントラルラリーは、ラリー・ジャパンの開催に向けメイン会場となる愛・地球博記念公園や、県道、市道、林道などのコース設定の確認、スタッフの競技運営の研修、国際自動車連盟（ＦＩＡ）の医療査察などを目的にテストイベントとして開催された。セントラルラリーでは競技区間であるスペシャルステージ(SS)とＳＳを結ぶリエゾンと呼ばれる一般公道で競技車両が事故渋滞に巻き込まれるというアクシデントが起きたが、一部のＳＳをキャンセルすることで競技全体を無事に終えることができ、２日間で約４万人の方々にラリーを楽しんでいただけた。コース設定は日本で１０年ぶりとなるＷＲＣに相応しいテクニカルなコースで、神社を横切るルートなど日本らしい景観も考慮されておりＦＩＡから高い評価を得た。またスタッフの確保・育成の面では、競技運営やコースの安全管理などで６００人以上のボランティアの参加があり、競技運営の経験が積むことができた。本番では１，０００人以上のボランティアが必要であるが、ある程度の見通しが立った。医療査察は愛・地球博記念公園周辺の医療機関の状況やドクターヘリの運用方法等の確認が行われ、ＦＩＡからＷＲＣの基準を満たしていると認められた。このセントラルラリーの経験を踏まえラリー・ジャパンの本番に向けては一般公道における渋滞対策として複数の迂回ルートの設定とその柔軟な運用について関係者と綿密に協議を進めるとともに、紅葉狩りなどの観光目的の車で渋滞することも予想されるので、交通量が少ない早朝にリエゾン区間を走行するなど様々な対策を進めていく。

（2）ラリーコース、観戦エリア、地域振興策など全体計画について

質問要旨（福田よしお）　2020 年 FIA 世界ラリー選手権ラリー・ジャパンを成功させるためにラリーコース、観戦エリア、地域振興策など「全体計画」はどのようになっているのか。

答弁要旨（スポーツ局長）　当初の計画では、愛・地球博記念公園を含めた観戦エリアに３日間で９万人、沿道を含めると４０万人もの観戦客が国内外から訪れると想定しているが、新型コロナウイルス感染症の広がりを踏まえ、この想定は今後見直す必要がある。観戦客の受入れについては感染防止対策の徹底を最優先に主催者とともにしっかりと対応していく。感染防止対策と並行し本県は競技主催者の株式会社サンズ、岐阜県などとともに関連イベントの実施などで大会を支える実行委員会を設立し、今年１１月の開催に向け準備を着実に進めている。ラリーコースは市町のご協力と地元のご理解をいただき最終案が固まった。この６月１６日にはＦＩＡから内定の連絡があり、７月中頃には概要を公表できる見込みである。今後ＳＳの見どころに観戦エリアを設置し、パークアンドバスライドなど観戦客の交通アクセスの確保と安全対策について地元市町、警察、消防など関係機関と調整しながら本格的な準備を加速していく。また大会機運を盛り上げるため名古屋市中心部などで都市装飾を行うとともにメイン会場の愛・地球博記念公園では関係市町と連携してブース出展やＰＲイベントなどで会場を大いに盛り上げていく。なお１１月のラリー・ジャパン本番に向けては「新型コロナウイルス感染防止対策」が最も大きな課題であり、日本自動車連盟（ＪＡＦ）の指針を基に競技主催者が感染防止対策ガイドラインを作成する予定で、本県としても安全・安心な大会となるよう全面的に協力していきたい。

要望（福田よしお）　本年１月に開幕した 2020 年の世界ラリー選手権は新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響により第３戦ラリー・メキシコ以降、開催延期や中止となっている。ラリー・ジャパンも予断を許さない状況であるが 2021 年、2022 年と開催予定となっているので、もし本年のラリー・ジャパンがキャンセルとなってもモータースポーツの発展と地域振興のため代替イベントが計画された場合は県の支援を強く要望する。

「名古屋東部地域のまちづくりと連携した道路整備について」

質問要旨（福田よしお）　「三井ショッピングセンターららぽーと愛知東郷」の開業を控え都市計画道路名古屋春木線、都市計画道路名古屋三好線及び県道名古屋豊田線の日進市赤池二丁目北交差点改良事業の現在の進捗状況と今後の見通しについて伺う。

答弁要旨（建設局長）　都市計画道路名古屋春木線は、県道諸輪名古屋線のバイパスとして東郷中央土地区画整理事業により整備される約８００メートル区間とあわせて県においてその西側の約５８０メートル区間の整備を行っている。現在、大型商業施設が開業する９月の供用開始に向けて仕上げの工事を進めている。また土地区画整理事業区域の東側に残るバイパス約４８０メートル区間は引き続いての事業化に向けて調査設計に着手していく。次に都市計画道路名古屋三好線は主要渋滞箇所である東郷町地内の白土西交差点などの渋滞緩和と日進赤池箕ノ手土地区画整理による交通需要の増加に対応するため約７７０メートル区間のバイパス整備を進めている。現在までに約９割の用地を取得しており昨年度は準備工事にも着手し、今年度は引き続き工事を進めるとともに残る用地の取得に努めるなど事業進捗を図っていく。最後に赤池二丁目北交差点は西側が県道、東側が日進市道となっており、県と市が同調して右折帯等を設置する交差点改良事業を行っており今年度はそれぞれ用地買収に着手する。なお日進市に対しては県の土木事業費補助金により支援している。今後とも市町村が進めるまちづくりと連携した道路整備にしっかりと取り組んでいく。

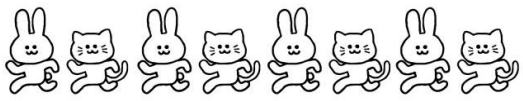
都市計画道路網図

経済労働委員会　議案質問

「新型コロナウイルス感染症対策中小企業事業継続計画策定支援費(7,217 千円)」

質問要旨（福田よしお）　災害時の事業継続計画(BCP)に加え感染症対策の事業継続計画策定支援とはどのように取り組むのか。また事業を民間事業者に委託する理由は何か。

答弁要旨（中小企業金融課長）　本事業は「新型コロナウイルス感染症対策あいちモデルBCP」の策定に合わせて啓発セミナーや相談会を予定している。BCP モデルの策定にあたっては例えば製造業における海外からの部品等の調達が困難となった場合などの具体的な影響への対応例やテレワークを始めとする新たな働き方といった情報を盛り込み、より具体的なイメージを持ちながら個別の企業事情により策定支援を行う。また委託事業は民間事業の持つ BCP に関する専門的な知見やノウハウを効果的に活用したい。



経済労働委員会　一般質問

「愛知県企業庁の日進東部地区用地造成事業について」

質問要旨（福田よしお）　日進東部地区は平成２年から平成３年にかけて企業庁が用地取得されたが事業未着手地区となっていた。市道黒笹三本木線が開通することから今後のスケジュールについて伺う。

答弁要旨（工務調整課長）　日進東部地区については令和２年２月に日進市三本木地区内の企業庁保有地を含む約 18 ヘクタールのエリアを開発に向けて検討を進める「開発検討地区」として位置付けた。今年度は現地測量、地質調査を行うとともに造成予備設計を実施し、採算性が確保できるか、用地取得の見込みがあるのか、企業立地の見通しがあるのかなど開発を決定する要件を日進市と連携して整理し、開発要件が整い次第、事業化に向け日進東部地区の開発決定を行う。また開発に必要となる保安林の解除など関係機関との調整が順調にいけばおおむね１年くらいでめどを立てたい。

活動 Photo

7/1　市道黒笹三本木線開通式典

7/4 三好ネコの会・東郷町白鳥ねこの会がみよし市カリヨンハウスで譲渡会を行いました。

7/8　連合愛知尾張東地域協議会から日進市社会福祉協議会へ非接触式温度計を２セット寄贈しました。